フォーラムニュース　Vol.52　2023　7/15

発行：「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会

http://www.f-kodomotachinomirai.com/

文責：大竹永介

戦争の悲惨さ伝えるために
この夏名作「お菓子放浪記」が講談に！

～「はだしのゲン」の神田香織師が口演～

児童文学の名作として名高い西村滋氏の「お菓子放浪記」がこの夏講談としてよみがえります。昭和 15 年の施設からの脱走を皮切りに「甘いお菓子へのあこがれ」を胸に過酷な運命と闘いながら生き抜く孤児「シゲル少年」の姿を描いたこの作品は 1976 年に理論社から刊行、全国青少年読書感想文コンクール課題図書となり、木下恵介氏の企画によってテレビドラマ化もされて大ベストセラーとなったもの。2005 年には講談社文庫版が刊行され 2011 年には「エクレール　お菓子放浪記」として映画化もされました。（現在は社会評論社から復刻版が刊行され Amazon 等で発売中・写真）

今回の講談化は西村滋氏の長女で脚本家のニシモトマキ氏が台本を書いたもの。演じるのは「はだしのゲン」の公演でおなじみの神田香織師匠です。8 月 13 日（日）に東京・中野のなかの芸能小劇場での「神田香織・伊織親子会」として「夏の戦争講談新作」の「お披露目」となります。

戦争体験者が数少なくなりこうした歴史の継承が危うくなっている現在、戦争の悲惨さ、過酷さを一人でも多くの人に伝えていく貴重な試みといえます。

講談化にあたって神田香織氏、ニシモトマキ氏のお 2 人からメッセージを頂きましたのでご一読ください。

★「はだしのゲン」と「お菓子放浪記」　　神田香織

昨春、「お菓子放浪記」の講談化の打診を頂きました。「大事な事を文字通り語り伝えていくと言う意味で講談は良い表現形態だと思う」という言葉も添えられ、落語に比べ地味な話芸の講談への理解に感激した事を覚えています。

読み始めたところ、あまりに面白くて一気読み。孤児という過酷な境遇のシゲル少年、少年院では教官から暴行を受けたり、夢にまで見た配給のお菓子を仲間に盗まれたりと、散々な目にあいながらも、心の支えとなったふたりの人物の優しさに支えられて少しずつたくましく成長して行く。が、待っていたのは戦争の現実‥。

私は 37 年前から「はだしのゲン」を語ってますが、ゲンもシゲルも明るく元気なわんぱく少年で、いつも腹ペコなのも一緒です。その少年たちが人災の戦争に巻き込まれ、ゲンは家族を、シゲルも恩人を失い、戦後も塗炭の苦しみを味わうことに。ロシアのウクライナ侵攻でも分かるように、戦争でもっとも犠牲になるのは子どもたちです。そして一度はじまったら終わりが見えないのも戦争です。二度と戦争をしないと誓ったはずのわが国は今「新しい戦前」と危惧されるような時代に突入してしまいました。「はだしのゲン」も広島市の小学生の平和教材から削除されてしまいました。

「お菓子放浪記」はお菓子が好きな人なら老若男女を問わず誰でも「自分はシゲルだ」と思える作品ではないでしょうか。活き活きとリズミカルな文章は作者西村滋さんご自身の体験だからこそ。（そして西村さんの娘さんで脚本家のニシモトマキさんが今回の台本を書いてくださりました。）小説のリズムを講談では十分に活かしてお菓子に恋い焦がれるシゲル少年の物語を読ませてもらおうと思います。

★「お菓子放浪記」の講談化に寄せて　　ニシモトマキ

戦争と子どもを生涯のテーマに作品を書き続けてきた父、西村滋が亡くなり、今年で 7 年になります。孤児として育ち、戦後は戦争孤児施設の補導員として子どもたちと過ごした経験が、作家としての原点になりました。そんな父の歩んだ道を残そうと、ホームページを作成しネット絵本を作ったり、作品朗読をして YouTube にアップしたりなど、個人でできることをアレコレとやっておりました。今回、父の自伝的小説である「お菓子放浪記」の講談化の話が動き出し、講談師の神田香織さんからも「感動しました、じゅうぶん講談になりうる作品です」とのお言葉を頂くことができました。神田香織さんといえば

「はだしのゲン」を講談にされた、反核・反戦への強い志をお持ちの女性。父の思いにも通じるものと心から嬉しく思いました。脚本家のハシクレの私（ニシモトマキ）は、無謀にも「お菓子放浪記」の講談台本を書かせていただき、香織さんに手を加えていただく形で、夏の戦争講談新作と銘打って、8月13日になかの芸能小劇場にてお披露目の運びになった次第です。古典芸能が好きだった父は、神田香織師匠の語る講談「お菓子放浪記」を、今から天国で楽しみにしているに違いありません。

★神田香織・伊織親子会～夏の戦争講談新作お披露目～

日時：8月13日（日）14：15開場　14：30開演

於・なかの芸能小劇場　3000円（自由席整理番号順入場）

ご予約お問い合わせは　TEL03－6315－0422 オフィス10（じゅう）

Office10.jyu@gmail.com

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

●〈戦争〉を伝えるためにもう１冊
「川滝少年のスケッチブック」好評発売中！

フォーラムニュース47号でご紹介した小手鞠るいさんの新作「川滝少年のスケッチブック」が6月27日講談社より刊行されました。この作品は小手鞠さんが「昭和と戦争」のリアルを描いた父川瀧喜正氏の絵日記を小説化したもの。アメリカに住む少年が祖父の絵日記を読むことによって日本の「戦争の歴史」にふれていく物語です。フィクションと実際の絵日記の巧みな構成によって私たちが忘れてはならない「過去」が浮かび上がってきます。

あとがきで著者はこう書きます。「もしも、日本がふたたび戦争をはじめようとしたら、みなさんは『ぼくは、わたしは、戦争には行きたくありません。武器を手にして、戦場でだれかを殺したり、殺されたりしたくありません』と、声を上げてください」と。戦争と昭和の生活の実相を伝える資料としても貴重な一冊です。

＊小手鞠るい/文　川瀧喜正/絵　＊四六判　176ページ　＊定価:1540円(税込)

●マイナンバーカードをめぐるトラブルが後を絶ちません。他人の口座が紐づけられていたり、顔認証が機能しなかったり、次から次へと呆れるばかりですが、それにもまして対応のひどさが目に余ります●紙の保険証と両方持って来てほしいといってみたり、高齢者から懸念がでれば暗証番号はいらないといってみたり。もはや支離滅裂です●そんなことで問題が解決するわけがありません。作家の中村文則氏が7月7日付の「福島民報」のコラムに書いています。「前提として、今の政府に信用がない」と。これは原発の処理水の放出問題についての発言ですが、まさに同じこと。「モリカケ問題」をはじめ、説明をせずごまかし、はては公文書の捏造までする政府をどうして信用できましょう？私たちの「抵抗」もまたその根底を打つ必要があるのではないでしょうか（o）